

梅雨の晴れ間に夏の日差しを強く感じる季節となりましたが、みなさま、お変わりなくご活躍のことと思います。今回は、奈良市医師会発行の「認知症マニュアル(実践編)」の紹介と「MCSによる災害模擬訓練」のご案内、そして病院連携室、地域包括支援センターをご紹介します。

認知症診療マニュアル(実践編)を発行しました



わが国では2025年に65歳以上の高齢者の5人に1人(約700万人)が認知症になると推定されています。そのような背景から、認知症患者やそのご家族を、かかりつけ医と地域の専門医療機関、介護サービス等の専門職が連携しながら早期診断から終末期まで、その人らしい生活を送ることができるよう支援するための「認知症診療マニュアル(実践編)」を発行しました。従来の教科書ではわからない、各先生方の日常診療での工夫等を掲載しています。各医療機関や事業所等に配布しておりますが、届いていない方や、ご覧になりたい方は、当センター(33-5244)にお問い合わせください。

第1章 認知症について

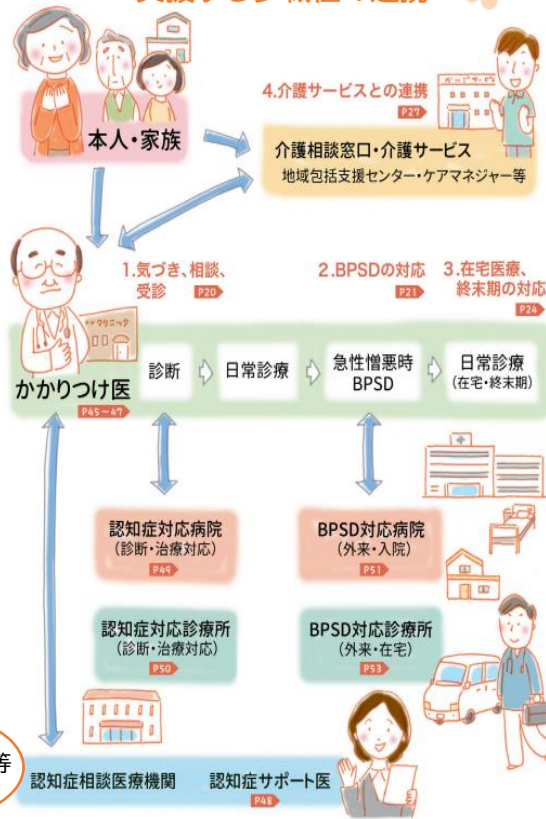
- ★加齢によるもの忘れと認知症によるもの忘れの違い
- ★認知機能検査や診断基準
- ★アルツハイマー型、血管性、レビー小体型、前頭側頭葉変性症の特徴や、診断方法、薬物治療について など

第2章 認知症対応連携マニュアル

気づきから日常在宅ケア、急性増悪時ケア、終末期まで対応するための連携マニュアルです。右図のように、かかりつけ医に相談し、認知症対応の専門医療機関やサポート医、地域包括支援センターやケアマネジャー等の介護サービスと連携し、本人や家族を支えます。

関わり方のポイントや心構え等実践のヒントも♪

～かかりつけ医と専門医 支援する多職種の連携～



第3章 Q&A

- Q.本人に自覚がなく、専門外来への受診を拒否している方にどのように対応していますか。
Q.独居・老々世帯等で、治療の相談や付きそいが困難な時の対応方法について教えてください。 など

第4章 認知症患者さんを支える医療機関の一覧

- 市内医療機関のリストを掲載しています。
- ★ かかりつけ医として認知症の相談可能な医療機関
 - ★ 認知症サポート医
 - ★ 認知症対応病院・診療所
 - ★ BPSD対応病院・診療所 (入院・外来・在宅)

7/16(火) 第9回「奈良あんしんネット(MCS)」による災害模擬訓練を実施します!

最近、奈良市でも地震の揺れを感じる事が多くなり、「災害はいつ起こってもおかしくない…」そんな思いで過ごす毎日になりました。あらためて、災害への準備や、災害時の行動についてシミュレーションしておくことが重要です。今回で9回目となった災害模擬訓練は、「災害時の情報共有やネットワークづくり、ICT操作に慣れること」を目的としています。お忙しいとは存じますが、ぜひご参加ください。「奈良あんしんネット」は、在宅医療には欠かせないツールで、また、普段の多職種連携にも大変役立っています。この機会にぜひご登録をお願いします。詳しくは当センターまでお問い合わせください。





当院は昭和12年に創設し、昭和23年「一般財団法人」に認可され、昭和32年には「無料低額診療相談所」を開設しました。平成30年に全棟改築を行ない、現在、一般病床55床・地域包括ケア病床25床・療養病床31床、計111床を有するケアミックス型病院です。関連施設としてケアプランセンター・訪問看護ステーション・デイサービス・ヘルパーステーション・若草地域包括支援センター・訪問診療・訪問リハビリを運営し、患者様に「24時間365日対応」をモットーとしております。地域医療連携室は、患者様・関係機関様と当院を「つなぐ」窓口として、相談員2名・看護師2名・事務1名で業務に取り組んでいます。

☆ 入院支援

他院様・二次救急からの転入院受入、紹介状の取り扱いや入院前面談の実施など他機関と当院をつなぎます。医療的支援が必要、介護保険サービスの利用調整が困難な方などを対象に「メディカルショートステイ」のご相談などもお受けしています。

☆ 退院支援

入院患者様への入院時・退院前カンファレンスの実施、退院に向けての介護保険利用や施設入所の相談、経済的課題の支援など、入退院生活を支える業務を行います。

☆ その他

地域の皆様への無料健康相談や無料低額診療事業の説明など安心して医療を受けられるよう、幅広くご相談をお受けしています。

連携室のメンバーは仲良く助け合いながら抜群のチームワークで日々取り組んでいます。
どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。



奈良市富雄東地域包括支援センターは大倭町に位置しており、電車なら学園前が最寄り駅となり、バスなら奈良国際ゴルフクラブ前で下車、自動車なら大倭病院跡地とエスティムライフ学園前の間の坂を下ってすぐ左手にあります。交通の便は良いのですが坂が多いです。担当圏域は富雄南・三碓・あやめ池(学園南)の3つの小学校区です。職員は包括専任職員としてセンター長(社会福祉士兼務)、社会福祉士1名、保健師1名、主任介護支援専門員1名の4名、ケアプランのプランナーとして介護支援専門員3名、事務員1名の計8名で担当させて頂いており、事務員が配置されていることが1つの特徴と言えます。

地域包括支援センターの運営に関する事業は、介護保険法に基づく地域支援事業でしたが、令和5年度からは社会福祉法に基づく重層的支援体制整備事業の包括的相談支援事業として実施することになり、高齢・介護分野の相談支援に限らず、障害・子ども・生活困窮といった多岐にわたり包括的に相談を受けています。受けた相談のうち対応が難しい事例は適切に多機関協働事業につなげられるようにしています。

令和5年度の取り組みでは、感染症や災害時のBCPの作成やケアプランデータ連携システム(プランナーとサービス事業所間でのデータ連携)の導入がありましたが、令和6年度はBCPの研修や訓練、虐待防止や感染症対策の委員会設置・指針整備・研修実施・担当者配置(包括専任職員は非該当、プランナーは居宅相当)が必要になっています。また、令和6年の介護保険改正において居宅介護支援事業所が介護予防支援事業所の指定を受けることで介護予防支援を直接契約できるようになっています。圏域の居宅介護支援事業所と連携し勉強会や研修会を重ねることで、介護のDX化や改正への適切な対応ができるよう地域包括支援センターとして役割を発揮し、職員一丸となって取り組んでいきます。

